

千葉大学 呼吸器内科

<http://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/respir/>



千葉大学呼吸器内科 後期研修プログラム 2019



千葉大学 呼吸器内科

1969年 千葉大学呼吸器内科学教室として発足。
渡辺昌平教授就任。
1986年 栗山喬之教授就任。
2008年 巽浩一郎教授就任。

診療

教育

研究

わたしたち千葉大学 呼吸器内科は千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科(臨床部門)と千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学(研究部門)とが一体となり、診療と研究そして教育に励んでいます。若い先生方には、われわれ同門の一員となることにより、自分自身がより活躍できる場が広がることを期待しております。

医療、医学は一人ではできません。そこにはHuman Chainの形成が必要と考えています。その輪(和)の中で、一緒に21世紀に羽ばたきましょう。

千葉大学大学院医学研究院
呼吸器内科学教授

巽 浩一郎



当教室は1969年(昭和44年)1月に千葉大学医学部において全国初の呼吸器内科単科の教室として設立しました。以後約半世紀にわたり多くの同門の呼吸器内科医を輩出しています。同門の医師は300人に及び、千葉県を中心とした多くの関連病院があります。毎年平均8名の新規入局者を迎えており、現在も医局としても益々大きくなっています。

当教室には他大学出身者も多く、女性医師も多数在籍しています。同門の一員となった先生方はそれぞれ関連病院での研修や大学院での研究を通して多くの経験を積み、呼吸器内科医として多方面で活躍しています。仕事と家庭が両立できる職場環境づくり、本人の希望に合わせた研修・進学・勤務、海外留学なども応援しています。

呼吸器内科医は必要とされている！

呼吸器内科医は不足している

千葉県をはじめ、全国で呼吸器内科医は不足しています。2014年の調査では全国の医師の中で呼吸器内科医は1.9%であり、患者数が多いにも関わらず循環器内科(4.0%)、消化器内科(4.7%)に比較すると少ない状況です。

呼吸器疾患はさらに増加

現在、肺炎、COPD、肺がんなど呼吸器疾患を有する患者は急増しています。また、日本の喫煙率は今だに高く、PM2.5などの大気汚染も様々な呼吸器疾患を引き起こす可能性があります。今後も呼吸器内科医が取り扱うべき疾患は多く存在すると予想されます。

関連・関連外病院からの派遣要請多数あり

千葉県内、都内の病院からの医師派遣要請が毎月のようにあります。大学病院としては、良き呼吸器内科医を育成し、呼吸器内科医師としての技術向上、経験集積、専門医取得、博士号取得を応援し、関東地域の呼吸器医療貢献の二ーズに答える責務を担っています。

当科は、巽浩一郎教授の指導のもと、臨床・研究・教育の各方面に力を注ぎ、千葉県内外の呼吸器医療に医局員一丸となって日々努力しています。最近では国内に11ある肺移植認定施設として、肺移植診療にも携わり、より充実した診療を行っています。また、様々な呼吸器疾患の治験、研究を通じた新規治療の開拓にも積極的に取り組んでおり、日本の呼吸器病学をリードする教室の一つと言えます。

後期研修病院は東京、千葉、静岡等の有力病院と連携し、入局者の希望に沿った研修ができる体制を構築しています。平成30年度から開始された新内科専門医制度においても関連病院と協力して専門医取得にむけた研修プログラムを作成しています。後期研修終了後は博士号取得のための大学院進学や海外留学なども積極的に支援しており、キャリア形成、優れた臨床医の育成に力を注いでいます。

当科の特筆すべき特徴の一つは雰囲気の良いさだだと思います。様々な背景をもった人材を県内外から積極的に受け入れ、お互いを尊重し力を発揮できる環境になっています。子育て等、各医師の二ーズに応じた働き方についても柔軟に対応しています。

皆さんが充実した後期研修を通じ、優れた医師になれるようにサポートしていきます。新しい仲間が増える事を医局員一同楽しみにしています。当科に興味がある方は、お気軽にご相談ください。

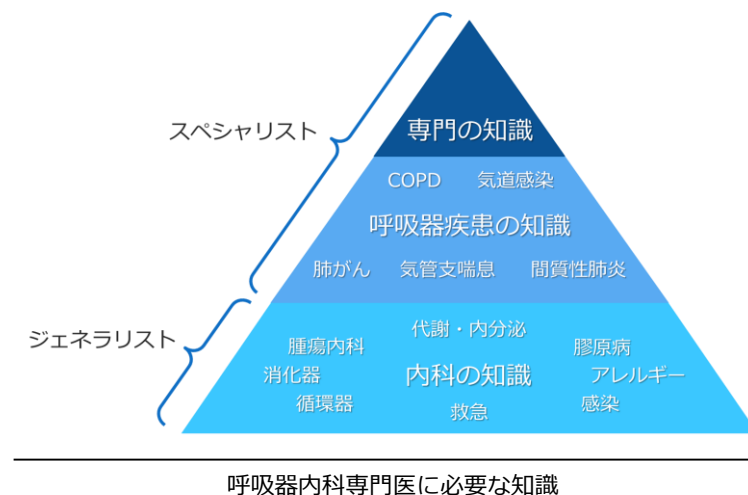
診療講師・医局長 伊狩 潤

ジェネラリストとスペシャリスト

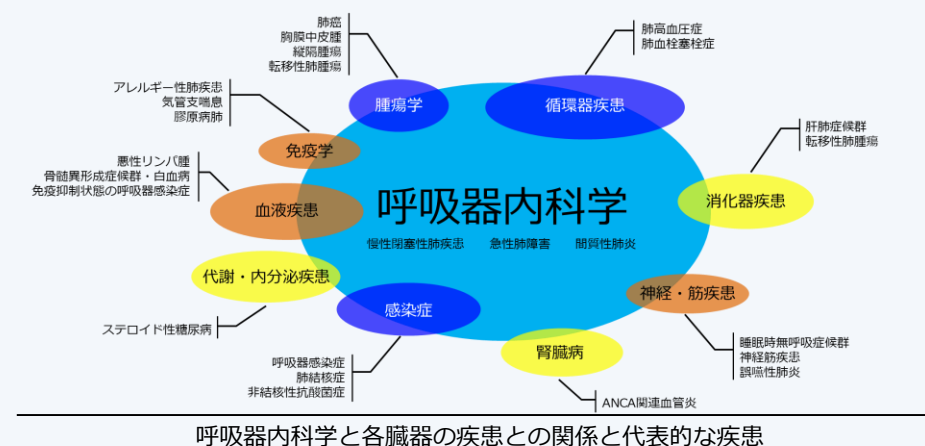
肺という臓器は呼吸を通じて外部と接触しているため、様々な病原体やアレルゲンなどに曝露されるとともに、他の臓器と血流やリンパ流を介して密接に関わっています。そのため、呼吸器疾患を診療するためには呼吸器領域だけではなく、幅広い内科の知識が必要となります。

さらに気道と呼吸を扱う診療科であるため急変時や救急外来でも柔軟に対応可能であるとともに、緩和治療や看取りといった慢性期の管理も経験できます。

当科では呼吸器疾患を通じて、呼吸器スペシャリストであり、ジェネラリストである医師を育成するよう努めています。



我々呼吸器内科医が診療する疾患は非常に多岐に渡っています。こちらの図に示すように呼吸器という臓器の特性上、心臓など他の臓器との関連した疾患も数多くあり、ひろく内科学の知識がないと対応できないことも多くあります。また未だに病態が解明されていない、治療法がない疾患も数多くあります。



我々はこれらの病態の解明や治療法の開発に主眼に置いた診療を行っています。さらに千葉県だけでなく日本全国の呼吸器内科疾患診療の最後の砦として、最高水準の医療技術を提供することを目標にしています。

助教・病棟医長 杉浦 寿彦

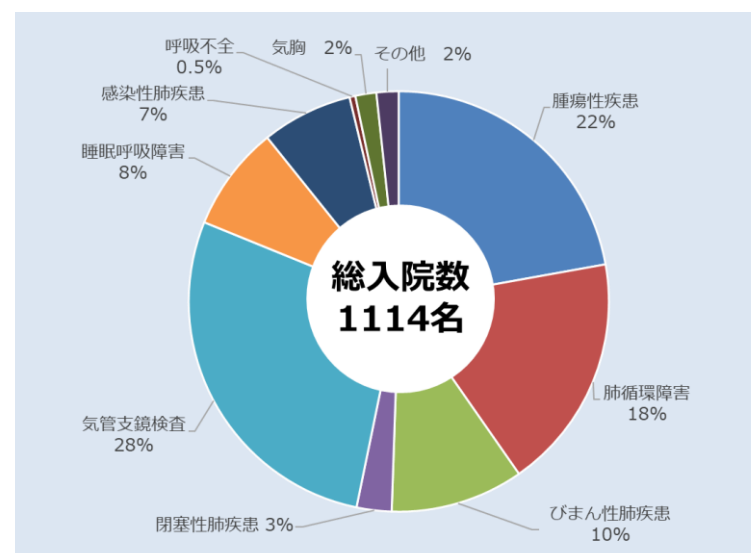
呼吸器内科の多様性

千葉大学病院 呼吸器内科

幅広い呼吸器疾患に対応しています

千葉大学病院では右図に示すように入院患者数が年間1,000例を超えています。肺癌や間質性肺炎といった一般的な呼吸器疾患から肺循環障害や睡眠呼吸障害など専門性のより高い疾患まで幅広く対応しています。また、他院からの転院依頼も積極的に受け入れています。

一般的な疾患から稀な疾患、急性期から慢性期と多くのことを経験することができます。



2017年 入院患者の疾患内訳

先進医療

多くの気管支鏡の経験に加え、最新のデバイスにも触れることができます。



気管支鏡検査は週3回に加え、緊急でも行っており、その件数は年間約500件以上になっています。超音波ガイドを用いた手技(EBUS-TBNA、EUBS-GS)を用いてより安全に正確に行うことを心がけています。また、胸部CTで作成した仮想気管支鏡を用いて、検査前から病変アプローチを検討して成功率を高めています。

近年は、重症COPD・重症喘息に対する内視鏡治療「気管支バルブ留置」、「気管支サーモプラスティ」などの新規治療にも取り組んでいます。

肺移植

当院は肺移植認定施設として、2014年から肺移植が行われています。2017年度は2例の肺移植を実施しています。呼吸器外科と連携しながら、移植適応評価、移植後のフォローアップ、移植肺の検体を用いた研究も行っています。

肺循環

当教室の設立当初から肺循環領域に力を入れており、現在は田邊教授を中心に千葉大学肺高血圧症センターとして肺高血圧症の診療・研究を積極的に行っています。

その臨床・研究成果は国内外の学会で発表されており、肺高血圧症の診療・研究では常にリーダーシップをとってきました。

関連病院だけではなく、関連外病院で研修している医師でも肺循環に興味を持ち、当科を訪れています。

心エコーや右心カテーテルなどの手技も学ぶことができます。



千葉大学病院

千葉大学病院は2015年7月にオープンした外来棟を始めとして施設の整備を進めています。患者さんにとっても広く快適な空間であり、日々多忙な医療者にとっても働きやすい職場環境となっています。

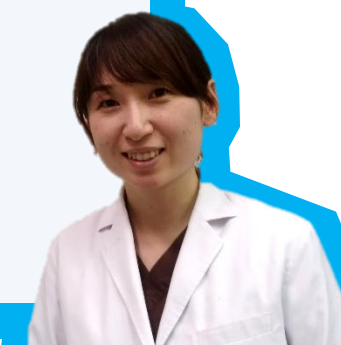
病院としては千葉県地域医療の最後の砦として、高度で安全・安心な医療提供を目指しており、呼吸器内科もその一員としての責務を果たすことを心がけています。さらに2017年度より臨床研究中核病院としても認定され、臨床研においても重要な役割を持っています。他の診療科もすべて揃っており、様々な難治性合併症をもつ症例にも対応できることが、研修においても非常に勉強になる点になります。



昨年度千葉大学附属病院で呼吸器内科後期研修医として勤務しました。病棟や外来で希少疾患、重症例などが経験できるだけでなく、気管支鏡や右心カテーテル、心エコーなどの検査も担当し、様々な技術を習得することもできます。また、各分野のリーダーや専門の先生のきめ細かいサポートのもと診療でき大変勉強になりました。

女性医師も多く、とても理解ある医局です。私自身も1歳児の子育て中で大変なこともありましたが、働きやすいように配慮してもらえました。まずは見学に来て千葉大学呼吸器内科の医局の雰囲気には是非触れてみてください。

大学院1年 柳澤 麻子



大学院 呼吸器内科学

千葉大学大学院呼吸器内科学

大学院生 25 名、研究生 2 名（2018年度）

当科では大学病院で1年間病棟医を経験した後に大学院に入学することになります。基礎研究と臨床研究どちらも行っており、大学病院での診療の中で生まれた興味や臨床上の疑問を参考に希望を聞きながらどちらに進むか決めます。

大学院2年目以降は研究に専念することが可能です。大学院生の間、一度は海外(米国・欧州)の国際学会で発表することを応援しています。

基礎研究

様々な分野における基礎研究を行っています。特に、肺高血圧症・間質性肺炎・COPDなど難治性疾患の発症機序と治療に関する研究、また各種呼吸器疾患モデル小動物を用いた肺再生医学・再生医療に関する研究などをテーマに、主に分子生物学的手法を用いた実験を行っています。

基礎研究は、膨大な時間と労力を必要とし、大変なことも多いですが、優れた成果がでたときの感動は何ごとにも代えがたいと思います。

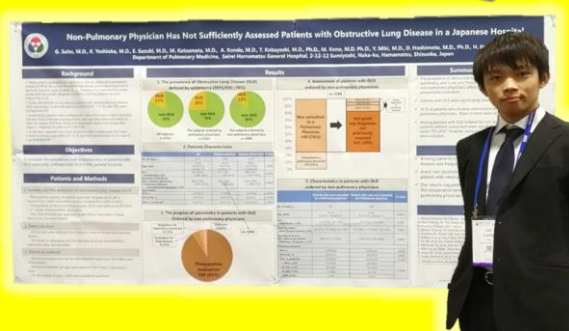
実験や研究の手順などは先輩からひとつひとつ教えてもらうことができます。



臨床研究

大学病院での診療を通じて、臨床研究を精力的に行っています。肺循環障害・間質性肺炎・COPD・睡眠時呼吸障害に対する診断・治療に関する研究、胸部CT画像診断に関する研究、胸部悪性腫瘍(肺癌・胸膜中皮腫)の診断・治療(遺伝子治療)に関する研究など幅広い領域の研究を行っており、発表や論文の書き方なども十分な指導を受けることができます。実臨床で抱いた疑問を解決するような臨床研究を行えるようサポートしています。

国内や国際学会での発表や論文作成も積極的に行っています。



大学院に入り丸3年が経ちます。「何が未知なのか？未知の世界を開拓するにはどうすれば良いか？」を常に考える必要がある研究生活は、正直楽ではありません。しかし、非常にハイレベルなスタッフ、志の高い大学院生に囲まれ、充実した毎日を送っています。

当科の大学院では自分で時間の管理がしやすく、研究計画を上手く立てられれば、空いた時間を子育て等のプライベートに充てることも可能です。仕事、プライベート共に充実させたい方にとって当科での大学院生活は最適だと思います。一度門を叩いてみて下さい。

大学院4年 三輪 秀樹
(長女・長男とともに)



卒業後の進路

卒業後については大学で研究・臨床・教育で活躍する、海外留学の経験をする、または関連病院や関連外の病院で呼吸器内科専門医として活躍する、開業しプライマリケアに従事するなど様々な選択肢があります。キャリアプランに合わせてそれぞれが最大限に活躍できるように応援していきます。

呼吸器内科医はジェネラリストとスペシャリストであるため、どのような進路に行っても活躍できます。また、本人の興味を生かして呼吸器専門医としてだけでなく、腫瘍専門医や感染症専門医など自分の得意とする分野で大学や市中病院でその能力を発揮している先生方も多くいます。

留学だより

当科では大学院卒業後に主に米国の大学を中心とした研究施設に留学することができます。近年ではNIH(ワシントン)、ネブラスカ州立大学医療センター、コロラド大学、ウィスコンシン大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、イリノイ大学などに研究留学をしています。現在もパリ大学国立肺高血圧センターに1名、ヴァンダービルド大学に1名が留学しています。

留学に興味がある方は留学経験のある医局員から様々なアドバイスを受けることができるので気軽に相談して下さい。



千葉大学呼吸器内科の特徴

1

呼吸器内科単科の教室として全国で初めて設立

呼吸器内科単科の教室として長い歴史を持ち、多くの呼吸器内科医を輩出してきました。その長い歴史の中で多くの診療・研究業績が生まれ、現在も多くの同門の呼吸器内科医師が活躍しています。全国の呼吸器内科の教室の中でも大きな教室です。

2

多くの新規入局者(他大学出身者も多数)

2017年は9名、2016年は11名、2015年は6名の入局者を迎え、それぞれ関連病院での研修や大学院での研究に励んでいます。協力しながら切磋琢磨する同期をたくさん持つことができます。



3

本人の希望に合わせた研修・進学・勤務を応援

後期研修先については当科の関連病院の中から入局者の希望、経験、興味のある疾患に合わせて紹介できるよう配慮します。後期研修後の進路は、当科大学院博士課程を中心として、基礎系博士課程への進学、あるいは専門性の高い病院、地域中核病院での更なる臨床研修、国内外の研究施設への留学など幅広い選択肢を提供しています。

4

仕事と家庭が両立できる職場環境づくり

結婚、妊娠・出産、子育てを含めたライフスタイルに配慮した研修・研究ができるようにしています。女性医師が多く在籍しており、様々なロールモデルが見ることができます。



千葉大学 呼吸器内科学の日常

千葉大学呼吸器内科の診療・研究の一部をご紹介します。

カンファレンス・回診では様々なアドバイスが聞けます。



先輩のサポートの下で多くの実験を経験できます。

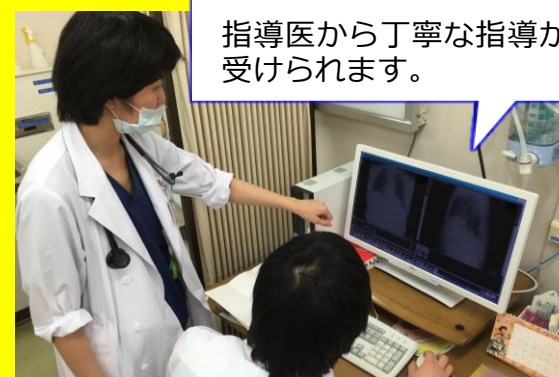


国際学会もいい思い出になります。



時には院外で親睦を深めることもあります

指導医から丁寧な指導が受けられます。



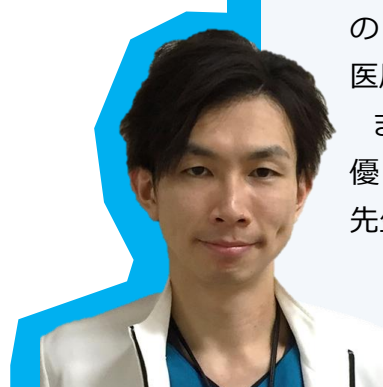
右心カテーテル検査も日常的に行っています。



当科では診療、研究だけでなく、医学生・研修医・大学院生それぞれの教育にも力を入れています。教えるのが好きな先生が多いので、呼吸器疾患に限らずわからないことがあったら身近にいる医局員にどんどん聞いて下さい。

また、大学病院を含め当科には熱血ドクター、面白ドクター、優しいドクター、美人ドクター、イクメンドクターなど多くの先生が在籍していますのでそのような先生方との交流も楽しめます。

特任助教 笠井 大

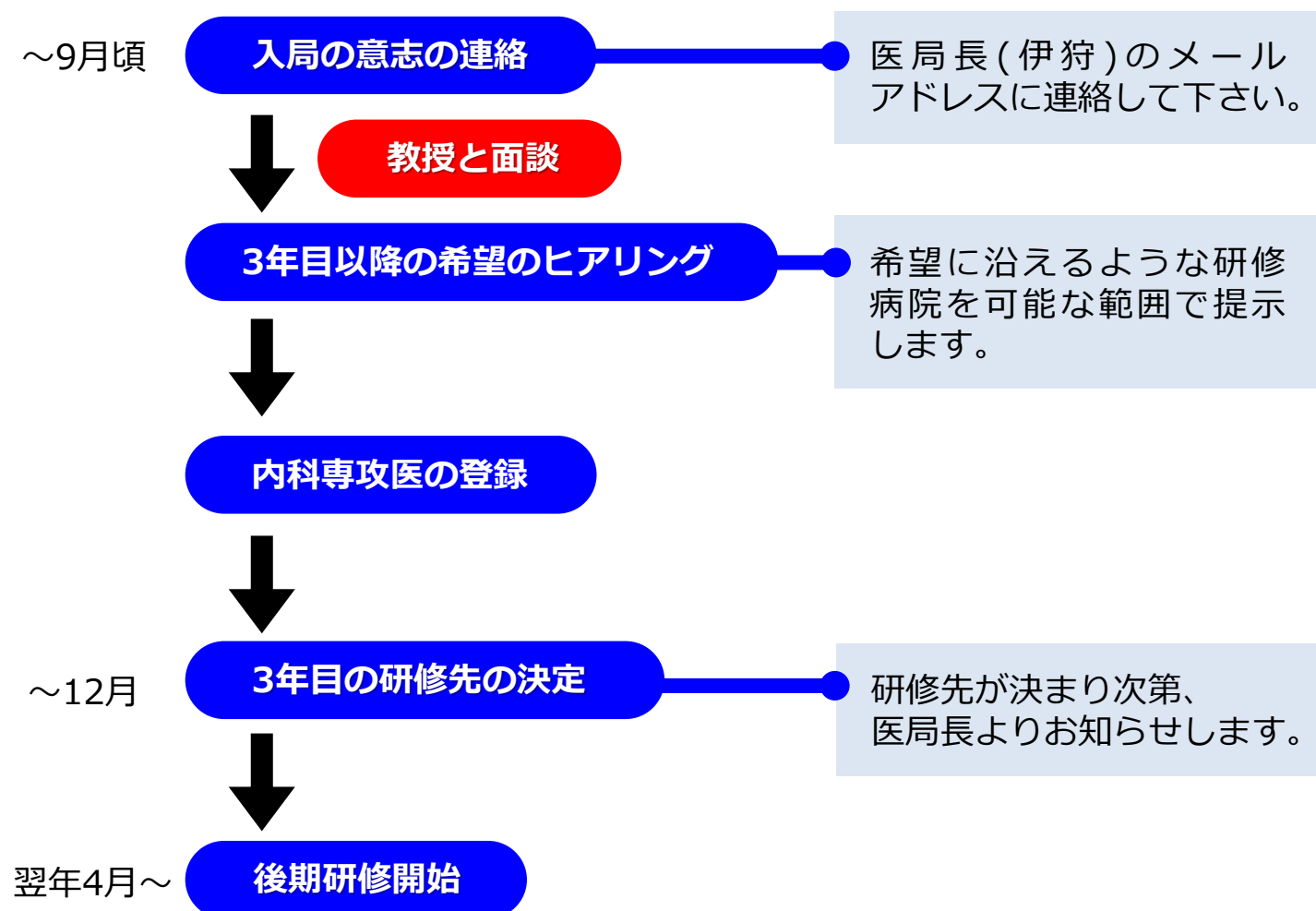


入局を希望される方へ

入局までの流れ

入局を希望される方は医局長(伊狩)のメールアドレスに連絡をお願いします。当科の後期研修は関連病院での研修から始まるため相談をしながら研修先を決めていきます。大まかな流れについては以下の図のようになります。

入局の意志の連絡には期限はありませんが、内科専攻医の登録のため9月が目安になります。



質問や見学なども常時受け付けておりますので、気軽にご連絡ください。

研修プログラム責任者・連絡先

科長 巽 浩一郎 tatsumi@faculty.chiba-u.jp

医局長 伊狩 潤 junikari@chiba-u.jp

TEL : 043-222-7171 (内線 5471、5472、5473)

千葉大学医学部アクセスマップ



キャンパスマップ



- **JR千葉駅から**
東口正面7番のバス乗り場から「南矢作」または「大学病院」行のバスに乗車、「大学病院」で下車。(所要時間約10分)
- **JR蘇我駅から**
東口駅前2番のバス乗り場から「大学病院」行のバスに乗車、終点「大学病院」で下車。(所要時間約15分)
- **京成電鉄 千葉中央駅から**
タクシーをご利用下さい。(所要時間約10分)
- **車で来られる方へ**
本院駐車場は、駐車スペースに限りがありますのでなるべく電車やバスなどの公共交通機関をご利用下さい。